

越前・若狭に関わる人物の辞世の句、歌など



朝倉義景

七転八倒 四十年中 他も無く自も無し ^{しだいもと} 四大本より空 ^{くう}

夏の夜の 夢路はかなき あとの名を
^{くもい} 雲井にあげよ 山ほととぎす



柴田勝家
お市の方

さらぬだに 打ちぬる程も 夏の夜の
夢路をさそふほととぎすかな

大谷吉継

契りあらば 六の ^{ちまた} 衢に 待てしばし 送れ先だつ ことはありとも



松平春嶽

梅田雲浜

なき数に よしやいるとも ^{あまかけ} 天翔り 御代を守らむ ^{すめくに} 皇国のため

二十六年 夢の如く過ぐ
^{へいせき} 平昔を顧思すれば ^{こし} 感 ^{ますます} 滋 多し
^{てんしょう} 天祥の大節 ^{かつ} 嘗て心折す

※ 獄中で詠まれた詩



橋本左内

君が代を おもふ心の 一筋に 我が身ありとも 思はざりけり



岡倉天心

我逝かば 花な手向けそ 浜千鳥
呼びかう声を印にて 落ち葉に深く埋めてよ
12 万年明月の夜 弔い来ん人を松の影



山川登美子

父君に 召されていなむ とこしへの
春あたたかき ^{ほうらい} 蓬萊のしま